



# 朝日新聞

## 奇跡への軌跡 始動



**22** Maya YOSHIDA 吉田 麻也

吉田麻也(よしだ・まや) 1988年8月、長崎県生まれ。兄の影響でサッカーを始め、中学1年から名古屋の下部組織に入り、2007年にトップ昇格。10年にオランダ1部VVフェンロに移籍し、12年からイングランド1部サウサンプトンに所属。日本代表は10年1月のアジア杯予選でデビューし、14年のW杯ブラジル大会に出場。代表通算80試合10得点。08年の北京五輪、12年のロンドン五輪にも出場した。189cm、78kg。



2018年は、サッカーのワールドカップ(W杯)ロシア大会の年だ。6大会連続6回目の出場を決めた日本の守備を束ねるのが、DF吉田麻也(29)。日本代表で唯一、最終予選全戦に先発フル出場した吉田が代表、W杯への思いを語った。

サッカーは何が起きるかかわからない。「まさか」があるスポーツです。今年6月に開幕するW杯ロシア大会で、日本代表はそれを起こせる、と思っています。

自分がプレーするイングランド1部リーグで昨年、その奇跡を目の当たりにしました。岡崎慎司選手が所属するレスターです。世界のトップレベルの選手がいるマンチェスター・シティーなどと比べると、つい最近まで2部にいたレスターは個々の選手の力が劣る。でも、全員がやるべきことをしっかりと理解して忠実にこなしてきたから、クラブ創設132年で初めての優勝ができました。日本代表にも出来ないはずがない。W杯でサプライズを起こせば、日本だけでなく、アジアのサッカーにとってもプラスになると思っています。

29歳になりましたが、僕自身、伸びしろがあると思っています。サウサンプトンの所属は6季目に入り、在籍が一番長い選手の一人になりました。クラブで生き残るため、成長し続けようとしています。試合に出られないときも、チャンスを持って備えています。僕は追いかける立場で毎日、必死。結果を出そうと思っただけじゃ結果につながらんのです。若い選手も同じように必死になんてくれれば、日本は強くなりませんか。代表で僕がやらなければならない状況に陥るのが理想。ミッドフィールダー、フォワードでは、それがちよっとずつ起きている。

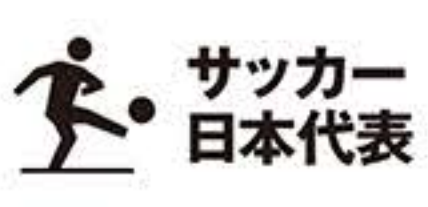
もっと追いかけたい。奴が出てきてもいいと思います。

2008年北京五輪でチームメイトだった本田圭佑選手、長友佑都選手ら、僕と同年代の選手は欧州のクラブへと旅立ち、日本サッカー界に大きなインパクトを残した世代だと思います。そのほとんどが日本代表で80試合、90試合を経験しています。このメンバーで一緒にできるのは、W杯ロシア大会が最後になるかもしれない。選手同士の思い入れは強いし、このメンバーで何かを成し遂げたいという気持ちがあります。

自分が胸を張って何かを成し遂げたと言えるのは、日本代表の歴史を塗り替えるときです。だから一貫して、W杯での目標は変えていません。日本はこれまで決勝(1ナメント・ベスト16)に2回行ってきます。ベスト8に入ってから初めて日本サッカー界に名前を残せる。国を背負ってプレーするプレッシャーとともに、そんな決意でW杯に挑むつもりです。

記事：河野正樹、清水寿之、富山正浩、潮智史、藤木健、菅沼遼  
デザイン：上村伸也、福宮千秋

朝日新聞  
**2018**  
第5部



- 2 5 数字で読み解く 歴代日本代表ベスト5
- 3 4 日本代表のあゆみ

私たちの代表を信じよう。応援の力を信じよう。サッカーは総力戦だ。

乾杯の準備をしよう。  
新・一番搾り

キリンビール株式会社

STOP! 未成年者飲酒・飲酒運転。お酒は楽しく適量で。妊娠中・授乳期の飲酒はやめましょう。のんだあとはリサイクル。